

## カラマツコキクイムシ

春から秋にトドマツやトウヒ類などの枝や小さな木の幹に穴が開く。穴は丸く、直径約1mm。穴から粉状の木くずやヤニがでる。樹皮下に最大長約2mmの米粒状の甲虫がいる。体が灰色、羽化直後は黄色。樹皮の下で繁殖する。幼虫は脚のないイモムシ。最大長約2mm。体は白く、頭は黄色。

衰弱した木を加害する。枝枯れを引き起こしたり、幼木を枯らすことがある。

よく似た害虫にトドマツコキクイムシがある。成虫は成熟しても体が黄色のようである。

【学名】 *Cryphalus laricis*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , キクイムシ科 (Scolytidae)

【分布】 北海道, 本州; 朝鮮半島。

### 【生態】

トドマツやトウヒ類の他に、アカマツ、チョウセンゴヨウマツ、カラマツなどに寄生する。主に新鮮な伐倒木や風雪害で折れた木の枝や幹先端で繁殖する。

年に1～2世代を経過する。成虫越冬。春に放置木の枝や幹に穿孔し、樹皮下で産卵、繁殖する。幼虫は主に内樹皮を食べて成長する。たいていは7月頃に成虫になり、外に出て他の木や丸太に移り再び繁殖する。寒冷な年や地域では8～9月に成虫となり、そのまま越冬する。

### 【被害と防除】

被害はトドマツやエゾマツなどトウヒ類でまれながら記録されている。衰弱した木が被害を受けることがある。特に植え付け直後の苗木、葉を食べる害虫の異常発生や異常乾燥などで衰弱した木が被害を受けやすい。

有効な駆除方法は確立されていない。被害は一過性なので、被害発生林分では生立木の衰弱を助長するような施業は避けるのが望ましい。幼木が加害された場合は中で虫が繁殖しているときに処分する。新たに植える場合は被害林分での生息数の減少を待って、翌年の秋以降に行うのがよいと思われる。

## トドマツコキクイムシ (別名 トウヒノコキクイムシ)

【学名】 *Cryphalus piceae*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , キクイムシ科 (Scolytidae)

### 【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 小泉力. カラマツコキクイムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 184-185. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツコキクイムシ [kiokui/karakoki/  
kaisetu.htm](http://kiokui/karakoki/kaisetu.htm)

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/19-12/16.